

# Lesson 18 「鎌倉幕府の執権政治」

～ Logical - 通史理解「日本史探究」疾風 Watabe 塾 ～

## 【北条氏の台頭】

- 頼朝の死後、その子〔1〕が第2代将軍（=鎌倉殿）に就任  
→ その実母である〔2〕は源頼家の独裁を抑え込み、  
その祖父である〔3〕ら  
⇒ **13人の有力御家人による**〔4〕
- 北条時政は孫の頼家を伊豆の修善寺に幽閉し、  
頼家の弟である〔5〕を第3代将軍（=鎌倉殿）に就かせる
- 北条時政の子である〔6〕は、和田義盛を倒し侍所当に就任  
→ **北条氏が鎌倉幕府の民政・軍事の要職を独占**
- 北条時政と北条義時によって確立された地位 = 〔7〕  
⇒ **のちに北条氏が代々世襲することとなる**

## 【承久の乱】

### ①承久の乱

- 京都では〔8〕が政治の実権を握り、  
**北面の武士**に加え、〔9〕を設置 … 院/朝廷の軍事力を強化
- 1219（承久元）鎌倉（鶴岡八幡宮）… 将軍：源実朝が頼家の子である公暁により暗殺  
⇒ **源氏将軍の血統断絶**  
→ 摂関家（藤原氏）出身の〔10〕を鎌倉に迎え入れ、  
鎌倉幕府の将軍職に就かせる = 〔11〕
- 1221〔12〕 **京都** 院/朝廷 **VS** 幕府/御家人 **鎌倉**  
→ 後鳥羽上皇が「義時追討」の宣旨  
→ **北条政子が東国武士の結束を呼びかけ、わずか1ヶ月で京都を占領し幕府側が勝利**

### ②院/朝廷側の敗北

- 後鳥羽上皇は〔13〕へ配流  
… 土御門上皇は**土佐**へ配流 … 順徳上皇は**佐渡**へ配流
- 仲恭天皇は位を追われ、幕府の影響下に後堀河天皇が即位

### ③幕府の優位確立

- 幕府は承久の乱で上皇方についた貴族・武士の所領 3000 余ヶ所を没収  
→ 幕府はその所領に新たに地頭を置く = 〔14〕 …（新補率法）
- 西国における幕府支配権の強化  
→ **北条時房・北条泰時**を〔15〕に任命する  
**京都での朝廷の動きを監視し、西国の御家人を統轄する**

## 【執権政治】

### ①北条義時・北条泰時の政治

- 1223（貞応2）諸国に命じて〔16〕を作成させ、  
→ 軍役などを課するさいの台帳とした
- 〔17〕が父の北条義時を継ぎ、執権に就任
- 北条時房を〔18〕に任命し、執権の補佐役とする
- 政務に練達した御家人を選び、〔19〕を設置  
→ **執権・連署・評定衆による合議によって幕府の政策が決定される体制を整える**
- 遠江以东 15 か国の御家人による〔20〕が整備される（鎌倉警備）

### ②御成敗式目の制定

- 1232（貞永元）〔21〕（= **貞永式目**）を制定  
→ 頼朝以来の慣例にのっとり、守護・地頭の任務や権限、訴訟手続きを定める  
→ 女性の財産や養子、下人・所従の子などの処分については武家独自の規定  
→ 式目を六波羅に送り、守護を通じて国々に徹底させる  
→ **武家法の根本法典とされ、のちの室町幕府の法や戦国大名の分国法にも影響**

### ③北条時頼の政治

- 1246（寛元4）執権：〔22〕  
→ 前将軍の九条頼経を、陰謀の疑いで京都へ送還
- 1247（宝治元）三浦泰村一族を〔23〕で一掃する  
→ 北条氏の覇権が一層強固なものとなる
- 1249（建長元）〔24〕を設置 → **訴訟の迅速化**
- 後嵯峨上皇の皇子である〔25〕を鎌倉に迎え入れ、  
鎌倉幕府の将軍職に就かせる = 〔26〕
- 1261（弘長元）儉約徹底と訴訟の公正/迅速化を命令 …〔27〕

## 北条時頼の治世に北条氏の覇権が確立

- 北条一族の権力争いも表面化し、〔28〕 **専制** への動きが芽生えた  
※ **北条時政を初代として、北条義時以後の嫡流の家柄 = 「得宗家」**